

故 中拂 仁 教授

## 故 中拂 仁 教授

### 1. 略　歴

昭和 21（1946）年 11 月 22 日　鹿児島県に生まれる
昭和 40（1965）年 3 月　鹿児島県立指宿高等学校　卒業
昭和 44（1969）年 3 月　国士舘大学政経学部一部政治学科　卒業
昭和 47（1972）年 3 月　国士舘大学大学院政治学研究科修士課程　修了
昭和 51（1976）年 3 月　国士舘大学大学院政治学研究科博士課程　満期退学
昭和 60（1985）年 4 月　国士舘大学政経学部二部助手
昭和 61（1986）年 4 月　国士舘大学政経学部二部専任講師，同助教授を経て
平成 11（1999）年 4 月　国士舘大学政経学部教授
平成 28（2016）年 1 月 30 日　逝去

この間，学年担任，教務主任，学生主任，情報科学センター運営委員，教職課程委員会委員，国士舘施設整備連絡会世田谷校地部会委員及び世田谷校地部会既設建物等整備小委員会委員，高等教育改革審議会自己評価システム部会委員，学生生活指導委員会委員，寮運営委員会委員，奨学生選考委員会委員，就職指導委員会委員，大学院政治学研究科修士課程委員，図書館運営委員会委員，学科主任を歴任。

### 2. 主要研究業績

**論文等**

「荻生徂徠 ―― 政治学的考察の一研究 ――」,『政経学会誌』第 5 号（昭和 51 年）
「日本の朱子学受容の概論（一）」,『国士舘大学政経論叢』第 53 号（昭和 60 年）
「日本の朱子学受容の概論（二） ―― 近世草初期社会と朱子学 ――」,『国士舘大学政経論叢』第 55 号（昭和 61 年）
「横井小楠の政治思想 ―― 為政者観・政治家論の一研究 ――」,『国士舘大学政経論叢』第 67 号（平成元年）
「横井小楠の「済民」観」,『国士舘大学経済研紀要』第 6 巻 1 号（平成 6 年）

「横井小楠の開国論と『海国図志』」,『国士舘大学経済研紀要』第 8 巻 1 号（平成 8 年）

「横井小楠の幕政批判」,『国士舘大学経済研紀要』第 9 巻 1 号（平成 9 年）

「江戸期における「公」観念の推移 ── 荻生徂徠と横井小楠 ──」,『国士舘大学政経論叢』第 99 号（平成 9 年）

「横井小楠の学と実践」, 国士舘大学経済研究所編『日本の経済発展と近代化』（成文堂, 平成 10 年）

「明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生」,『国士舘大学政経論叢』第 112 号（平成 12 年）

「由利公正と横井小楠の政治思想と実践 ── 由利公正の福井藩時代の実践を中心として ──」,『国士舘大学政経論叢』第 125 号（平成 15 年）

「江戸時代に近代化の萌芽をみる」,『国士舘大学政治研究』第 5 号（平成 26 年）

**翻訳**

ウィリアム・エリオット・グリフィス著「ラットガーズ大学卒業生の滞日活動（Ⅰ）」,『国士舘大学政経論叢』第 94 号（平成 7 年）

ウィリアム・エリオット・グリフィス著「ラットガーズ大学卒業生の滞日活動（Ⅱ）」,『国士舘大学政経論叢』第 95 号（平成 8 年）

**所属学会**

日本政治学会

日本思想史学会

横井小楠と変革期思想学会